

「脳が排卵促進」解明

が分かった。投与しな
かったマウスでは緩ん
でいなかった。

排卵が正常にみられ

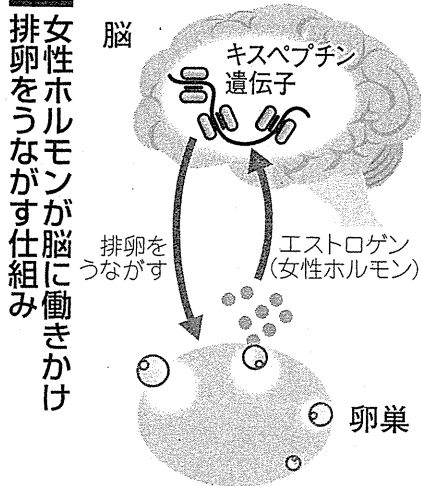
女性ホルモンの一種エストロゲンが、

脳に働き掛け排卵を引き起こす仕組みを、名古屋天大学院生命農学研究科の東村博子准教授らのグループがマウスを使った実験で明らかにした。米科学アカデミー紀要(電子版)に九日、発表した。正常な排卵を起こすことにより有効な不妊治療につながるという。

名大グループ発表

卵巣内で、排卵間近に成長した卵胞は、大量のエストロゲンを放出。脳前方で生殖活動に関わる神経細胞「キスペプチンニューロン」を活性化させることとは分かっていたが、その仕組みは解明されていなかった。東村准教授は、卵巣を摘出したマウス四匹を二つのグループに分け、一方だけにエストロゲンを大量に投与した。するとエストロゲンが、神経細胞内でヒストンというタンパク質に巻き付く遺伝子を緩ませ、排卵を促すキスペプチン遺伝子を発現させていること

不妊治療に応用期待



女性ホルモンの一種エストロゲンが、脳に働き掛け排卵を引き起こす仕組みを、名古屋天大学院生命農学研究科の東村博子准教授らのグループがマウスを使った実験で明らかにした。米科学アカデミー紀要(電子版)に九日、発表した。正常な排卵を起こすことにより有効な不妊治療につながるという。

東村准教授らは、卵巣を摘出したマウス四匹を二つのグループに分け、一方だけにエストロゲンを大量に投与した。するとエストロゲンが、神経細胞内でヒストンというタンパク質に巻き付く遺伝子を緩ませ、排卵を促すキスペプチン遺伝子を発現させていること

遺伝子活性化排卵促す

女性ホルモンの一種「エストロゲン」が脳内のたん

ばく質「キスペプチン」の遺伝子を活性化させて排卵を促す仕組みを、名古屋天大学院生命農学研究科の東村博子准教授らのグループがマウス実験で明らかにした。家畜の繁殖や不妊治療への応用が期待されるという。9日に米科学誌「米科学アカデミー紀要」電

女性ホルモン エストロゲン

子版に掲載された。

東村准教授らのグループによると、マウスにエストロゲンの粉を詰めたシリコンチューブを移植。マウスのエストロゲンの血中濃度は高まり、脳でキスペプチンを作るための遺伝子を収納しているたんばく質に働きかけ、遺伝子の働きを促

名大チーム 不妊治療応用に期待

した。この結果、キスペプチンが活発に分泌され、排卵が促されたという。東村准教授は「ヒトや家畜の排卵障害の治療法開発への糸口になる。家畜を繁殖させて食料問題を解決する一歩になれば」と話している。キスペプチンは11年前に発見され、動物の生殖を促す働きがあるとして近年、研究が進められているという。【河出伸】